

技術者の心をくすぐるマシンを独自の使用法で、高効率化へ!

若くして技術者達を力強く牽引されておられる 北海道河川開発株式会社 代表取締役の多田 輝 様にお話を伺いました。



水に関わる仕事が得意分野

我々北海道河川開発は会社名から分かる通り、流量調査、河川横断、深淺測量、ダム堆砂量調査など、水に関わる分野の測量が得意分野です。様々な作業を行う上で、今まで他社のトータルステーションを使っていたのですが、少数精鋭で行う我々の作業スピードに追いつけなかったのが現状でした。最新のマシン、最新の技術で仕事を行うことが使命と思い、それに見合う測量機を検討していました。

Trimble S6 との出会い

そんな中で、非常に良いタイミングで地元の販売代理店から Trimble S6 を紹介して頂きました。初めてこの機械を見たときの感想は『とんでもないトータルステーションだ』と感じました。特長などの説明を受けながら、直感で様々な業務分野で、それらの特長や性能を使い分けることが出来ると確信。更なるスピードアップ、お客様への技術力の PR そして、保守的な考えを一切持ち合わせていなかったことから、即座に導入を心に決めたのです。今では、2 台目も購入し、2 台の S6 はいつでも 100% の稼働率です。

2台の Trimble S6 が稼働率 100% その理由

- ・ほとんどの作業において、作業スピードが従来方式の 3 倍程違う
- ・若者にも高齢者にも助かるオートフォーカス機能。
- ・視準、作業スピード、精度において個人差が生じない。
- ・河川や森の中で、葉っぱがあっても、隙間で迅速に測距出来るのは素晴らしい。
- ・観測プログラムは良く出来ている。充実していて、使い易い。ボタンも大きい。
- ・測設でミラー側(杭打側)に 2 名を配置出来る。

経験から産み出された、弊社特有の Robotic の使い方

ミラーをいつでもトラッキングし続け、瞬時に測距する高い性能は、我々の作業スピードがアップ、更に観測のリズムが上がりました。今まで抱えていた、そのリズムが止まってしまうたり狂ってしまったりのストレスが一切ないのは高効率そのものです。また、元々ロボティックは 1 人で観測するシステムなのでしょうが測設の際、ミラー側に作業員 2 人を配置し、視準等の全てを機械に完全に任せてしまう手法を用い、効率化に成功しています。それは従業員との相談と経験から生み出された手法で、杭打ちに 2 人投入出来るのは非常に大きなメリットと考えています。我々はメーカーから与えられた機械を普通に使うのではなく、測量技術者としてその技術と可能性を読み取り、真の意味で使いこなすことも必要不可欠な使命と考えています。

多田様からのメッセージ

Trimble S6 をまだ使っていない方は、とにかく使ってみてください。この機械を使って 1 日現場をこなしてみればその理由が分かるはずです。全ての現場と作業で威力を発揮し、作業効率だけでなく、社員達のモチベーションも間違いなく向上します。最先端の技術も斬新なデザインも技術者の心をくすぐります。測量技術者であってもいつもで格好つけて仕事して欲しいと思っています。

